

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1-1
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

4月号

(第151号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

虚仮不実のわが身にて

正信念仏偈に学ぶ
貪愛瞋憎之雲霧
常覆真信心天
貪愛・瞋憎の雲霧、つねに
真信心の天に覆へり。

「現代語訳」
貪りや怒りの雲や霧は、
いつもまことの信心の空を
おおっている。

前の二句から「心光摂護の益」が続くところです。それを、親鸞さまは『尊号真像銘文』に詳しく示されます。

「摄取心光常照護」というのは、信心を得た人を、無碍光仏の光明は常に照らしてお護りになるので、迷いの暗闇が晴れ、生れ変わり死に変わりし続けてきたその長い夜がすでに明け方になっていくと知るがよいというのである。「已能雖破無明闇」というのはこの意味である。信心を得るということは、明け方を迎えるようなものであると知る

がよい。「貪愛瞋憎之雲霧常覆真信心天」というのは、わたしどもの貪りや怒りを雲や霧にたとえて、それらがいつも信心の空をおおっているのであると知るがよい。信心を得て阿弥陀仏の「心光」によって護られる様子を、闇の夜が明けていく明け方にとえられ、そして、信心を得たとしても、貪りや怒りが絶えることのない様子を、光を覆ってしまう雲や霧にたとえられていきます。まことに、わかりやすいたとえではないでしょうか。

また、『正像末和讃』には、
浄土真宗に帰すれども
真実の心はありがたし
虚仮不実のわが身にて
清浄の心もさらになし
とも詠まれていきます。「浄土の真実の教えに帰依しているけれども、このわたしがまことの心をもつことなどあり得ない。嘘いつわりばかりのわが身であり、清らかな心などあるはずもない。」という意味です。

誰しも、不自由なく幸せな暮らしを願うのは当たり前です。しかし、「神仏に祈願してご加護を得る」といった力は、本来、阿弥陀仏にはないといつても過言ではありません。親鸞さまは、困難や苦悩はなくなるものではなく、乗り越えていく術を仏さまから頂いていると示されます。莊嚴なお寺の仏さまだから特別という見方ではなく、先立たれた方（仏さま）を思い起こしながら手を合わすお仏壇の仏さまも、どちらも同じ阿弥陀仏なのです。手を合わすと、どうしても、役に立ちそうなこと、得になりそうなことに走ってしまうのが性でしょうが、手を合わすことの本当の意味に気づくと、仏さまはこの私を照らし護って育ててくださる存在なのです。

引き続き次の二句も、光が雲や霧に覆われてしまう様子をさらに詳しく述べているところですよ。



浄土真宗 新 仏事のイロハ

四、法要・行事

— 仏縁を深めよう —

「報恩講」

報恩講はお寺でもっとも大切な法要

お寺の「報恩講」が近づいて、新しいご門徒にお参りするようになると、「報恩講って何ですか？」と尋ねられることがあります。「報恩講にお参りする人たちが浄土真宗の門徒」と言っているほど、「報恩講」と「門徒」は切っても切れない関係にあるのですが、核家族の多い都市部では、報恩講を知らないご門徒（？）が増えてきているようです。

報恩講は、浄土真宗の教えを開いて、私たち万人が救われる道を説いてくださった宗祖親鸞聖人の、ご苦勞を偲んで営まれる一年でもっとも大切な法要なのです。



本願寺の御正忌報恩講の様子

私たちは、先祖の年忌法要には比較的気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人の教えを依りどころに人生を歩むように」と私たちに願われているのも先祖の方がたです。聖人のご恩を忘れるようでは、せっかくのご先祖の苦勞も水泡に帰してしまいます。親鸞聖人のご恩に感謝し、聖人がお示しくくださった阿彌陀さまのご本願を仰いで、お念仏申す人生を歩むのが門徒です。報

恩講はそうした私たち門徒にとつて、何よりの勝縁となる法要なのです。

ところで、この報恩講は本山本願寺をはじめ、全国のお寺、一般家庭でも勤められます。

本山では、毎年、聖人のご正忌（祥月命日の一月十六日）に合わせて一月九日から十六日までの七昼夜、勤められますので、「御正忌報恩講」と言い、「御七昼夜」とも呼んでいます。

各お寺では、一般に、本山の法要に先立って、年内に勤める慣わしで、そのため「お取り越し」とか「お引き上げ」とか言っています。

これらの報恩講のお飾りは家庭で勤める報恩講も含めて、もっともていねいに行い、法要後は、精進料理のお齋を出したりします。

いずれにしても、努めて報恩講のご縁を持ち、お参りしましょう。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

年忌法要表

1 周忌	2023 (令和 5) 年	23 回忌	2002 (平成14) 年
3 回忌	2022 (令和 4) 年	25 回忌	2000 (平成12) 年
7 回忌	2018 (平成30) 年	27 回忌	1998 (平成10) 年
13 回忌	2012 (平成24) 年	33 回忌	1992 (平成 4) 年
17 回忌	2008 (平成20) 年	50 回忌	1975 (昭和50) 年

編集後記

感染症の影響も薄れてきて、ご門徒の法事の依頼が戻りつつあります。勤めたくても心配な時期が続いていて、逃してしまつたという方もおられます。◆右の「年忌法要表」を見てという方もおられて、毎回、定着してお知らせしていると気づかれるようです。大切な方のご法事、お勧めしています。